
主催者挨拶

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
島谷 克義

ファイザーヘルスリサーチ振興財団の島谷です。主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

本日は第20回ヘルスリサーチフォーラム及び平成25年度研究助成金贈呈式に、お忙しいところご出席を賜り、誠に有り難うございます。また、日頃は当財団の事業活動に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日は厚生労働大臣 田村 憲久 様のメッセージを厚生労働省技術総括審議官 三浦 公嗣 様より頂戴をいたし、また厚生労働省大臣官房厚生科学課長 宮嶌 雅則 様、医療経済研究機構研究主幹 玉川 淳 様、ファイザー株式会社代表取締役社長 梅田 一郎 様にご挨拶をいただくことになっております。厚く御礼を申し上げます。

本日の会は3つのプログラムから構成されています。

まず1つ目は、今回のフォーラムが第20回という節目の会ですので、その記念行事として、当財団の選考委員長の自治医科大学学長 永井 良三 先生に特別講演をお願いしています。先生の幅広いご経験・ご見識からヘルスリサーチに関する貴重なお話が伺えるものと、大変楽しみにしております。

2つ目は、平成23年度に助成を受けられた皆様の研究成果、ならびに一般公募の皆様のご研究のご発表をいただくプログラムです。すでに午前中にポスターで14題のご発表があり、大変活発な討論がなされていました。午後はこの会場で16題のご発表が予定されています。引き続き活発な議論を期待しています。

3つ目は、第22回（平成25年度）の研究助成発表ならびに贈呈式です。詳しい内容は後ほど永井先生からご説明をいただきますが、本年度も175件という多数の応募をいただきました。その中から29件が、厳しい選考を経て採択されました。採択された皆様には心よりお祝いを申し上げます。

平成4年の財団の発足から数えますと、合計で704件の研究が採択され、助成総額は17億430万円になりました。これもひとえに主たる出捐企業であるファイザー株式会社ならびに多くの関係団体や個人の皆様のご尽力の賜物と、深く感謝いたしております。

当財団は平成4年に「科学の進歩が受け手である患者さんや人々の健康・QOLの向上に本当に役立っているのか」ということをテーマにした学際的な活動を目的として発足しました。その後の分子生物学やゲノムを含めた医科学の進展には目覚ましいものがあり、新しい医療が次々に生みだされ、日本人の平均寿命は女性が86.4歳、男性が79.9歳に

なっています。この超高齢化と言われる社会の中で、人々のより健康的な生活を可能にするためには何が必要かというヘルスリサーチのテーマは、単に理論と実践を繋ぐだけではなく、または病院などの医療現場と患者さんを繋ぐだけではなく、いかに地域全体でシステムを構築し支えていくかという大きな枠組みの中で考えていく必要があり、そのためにはさらに多くの異なった専門分野の方々のご協力が必要だと考えられてきています。

ある意味ではヘルスリサーチの重要な転機に差しかかっているのかもしれません。また、大変難しい時代が待ち受けているのかもしれません。

私どもも微力ではございますが、この新しい方向を目指したヘルスリサーチの振興に引き続き貢献して参りたいと存じますので、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。